

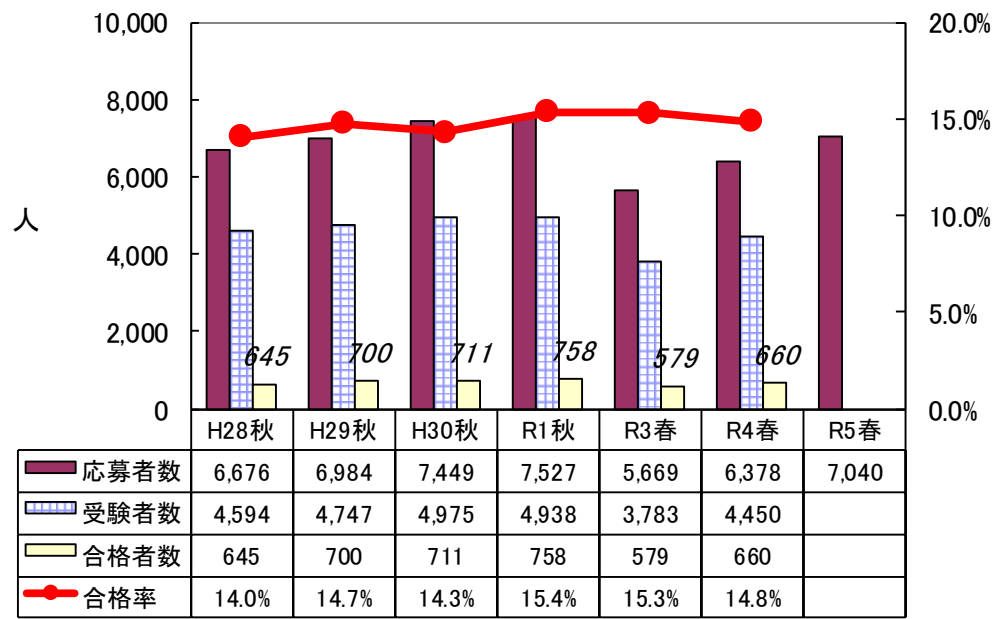
ITストラテジスト

1. はじめに

1.1 総評

午前Ⅱ試験は、新規問題が例年より多く出題されましたが、過去問題に関連する出題もあり、過去問題を学習した受験者は合格の基準点を確保できたと思われます。午後Ⅰ試験は、4問とも解答の骨子はある程度把握できる問題になっていました。しかし、各問題に解答表現に悩む設問がいくつかありました。午後Ⅱ試験は、全体的に取り組みやすいテーマで、問題文に細かい設定が多くありました。

1.2 受験者数の推移



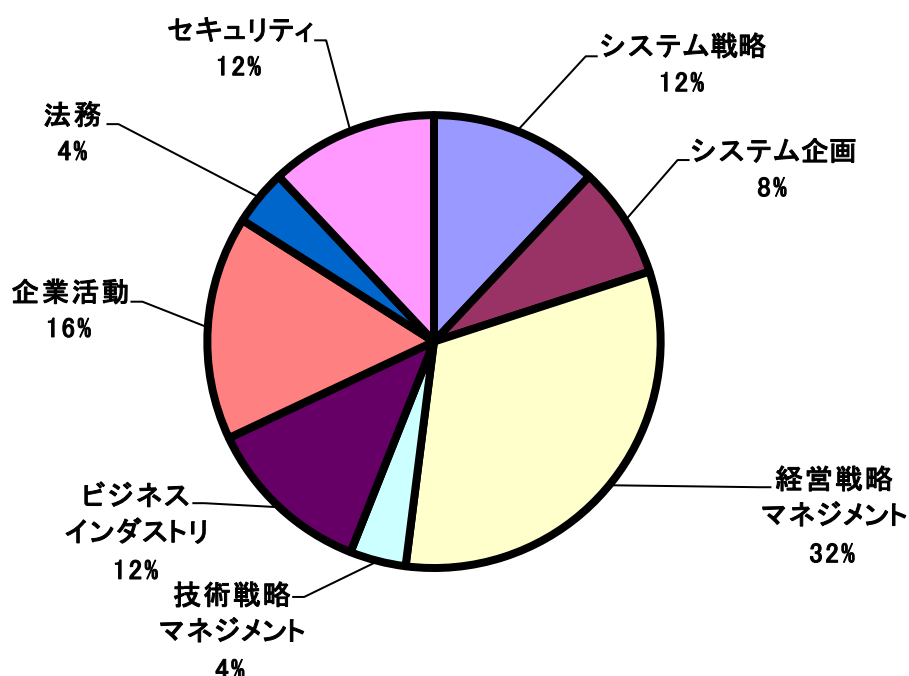
2. 午前Ⅱ問題の分析

2.1 問題テーマの特徴

「ロジスティック回帰分析」「投資効果が最大となるプロジェクト」「非機能要件項目」「流入経路分析」「魔の川」「BIM/CIM」「OT(Operational Technology)」「活動基準原価計算(Activity-Based Costing)」「資金決済法における暗号資産」「OSINT」など、新しいテーマが10問出題されました。ただし、「投資効果が最大となるプロジェクト」はNPVの計算、「魔の川」は死の谷が過去に出題されているので、過去問題の学習は有効であると考えます。

出題分野別では、前回と比較すると、システム企画が1問増え、システム戦略が1問減りました。それ以外の出題分野の出題数は同じでした。

出題分野	出題比率	出題数
システム戦略	12%	3問
システム企画	8%	2問
経営戦略マネジメント	32%	8問
技術戦略マネジメント	4%	1問
ビジネスインダストリ	12%	3問
企業活動	16%	4問
法務	4%	1問
セキュリティ	12%	3問



2.2 難易度の特徴

例年より過去問題の出題数が減りました。新規問題の「BIM／CIM」や「OSINT」は知識がないと解答できない問題ですが、それ以外は、過去問題から派生した問題や、IT ストラテジストとしての知識で十分に解答可能な問題でした。全体的な難易度は「標準レベル」と判断します。

2.3 問題テーマ難易度一覧表

問	テーマ	分野名	難易度
1	SCM	システム戦略	B
2	プロビジョニング	システム戦略	A
3	ロジスティック回帰分析	システム戦略	C
4	投資効果	システム企画	C
5	非機能要件項目	システム企画	C
6	人口統計的変数	経営戦略マネジメント	A
7	ブランドエクイティ	経営戦略マネジメント	A
8	エスノグラフィー	経営戦略マネジメント	B
9	流入経路分析	経営戦略マネジメント	C
10	サービスプロフィットチェーン	経営戦略マネジメント	B
11	継続的改善サイクル	経営戦略マネジメント	B
12	ダブルビン方式	経営戦略マネジメント	B
13	SECI モデルの内面化	経営戦略マネジメント	A
14	魔の川	技術戦略マネジメント	C
15	BIM／CIM	ビジネスインダストリ	C
16	JIT(Just In Time)	ビジネスインダストリ	A
17	OT(Operational Technology)	ビジネスインダストリ	C
18	ベイズ統計	企業活動	B
19	活動基準原価計算(Activity-Based Costing)	企業活動	B
20	売上高の増加額の算出	企業活動	A
21	連結売上高総利益率	企業活動	B
22	資金決済法における暗号資産	法務	B
23	デジタル署名	セキュリティ	B
24	AES	セキュリティ	A
25	OSINT	セキュリティ	C

注) 難易度は3段階評価で、Cが難、Aが易を意味する。

3. 午後 I 問題の分析

3.1 全体の出題傾向及び難易度について

午後 I 試験は、ブロックチェーンやスマートシティなど最近注目される仕組みや構想などが取り上げられていました。問 1 と問 2 の設問内容はオーソドックスなものでした。難易度は、問 1 は「標準レベル」、問 2 は「標準レベル」、問 3 は「易しいレベル」、問 4 は「標準レベル」、全体の難易度は「標準レベル」と判断しました。

3.2 各問題のテーマ、特徴

問 1 は、SNS 運営会社のブロックチェーンを活用した IT 戦略に関する問題でした。「ブロックチェーンを活用した」とありますが、ブロックチェーンの技術的な内容を問うものではなく、IT 戦略や課題への対処、新しい仕組みや顧客ニーズの把握などが問われました。問題文には、比較的分かりやすく解答の根拠が示されていました。しかし、一部の設問では解答表現に苦勞するものもありました。

問 2 は、地域におけるスマートシティ構想に関する問題でした。スマートシティ構想についてどのような内容が問われるのか不安になった受験生も多かったと思います。設問の内容はオーソドックスなものでしたが、問題文中の解答のヒントとなる箇所は大まかに分かるものの、解答表現に迷う設問がいくつかありました。

問 3 は、アパレル製造小売事業者における新たなビジネスプロセスの構築に関する問題でした。問題文中に問題や課題、ニーズなどが分かりやすく記載されていました。また、解決方法も記載されていました。これらを、注意深く紐づけることができたがポイントになったと考えます。

問 4 は、モーションシミュレーターの事業展開に関する問題でした。モーションシミュレーターがどういうものか分からなくても、問題文からある程度把握できたと思います。また、解答のヒントも見つけやすかったと考えます。しかし、解答を制限字数内にまとめようとすると解答表現を工夫する必要がある設問がいくつかありました。

3.3 問題テーマ難易度一覧表

問	項目	内容
1	問題テーマ	SNS 運営会社のブロックチェーンを活用した IT 戦略
	事例内容	ポイント付与システムなどによる A 社経済圏の拡大
	設問要求	IT 戦略の前提, システムの仕組み上の課題, 提供する仕組みの内容, 会員のニーズ, 活用する仕組み, 提携企業への対応
	難易度	B
2	問題テーマ	地域におけるスマートシティ構想
	事例内容	市町村向け行政システムの提供企業の事業領域拡大
	設問要求	強み・弱み, IT 化の狙い, 利用者情報取得・利用の目的, 人口増加に寄与する意見交換内容, PoC の実効性を評価する指標
	難易度	B
3	問題テーマ	アパレル製造小売事業者における新たなビジネスプロセスの構築
	事例内容	自社の強みを生かした多品種少量の新商品を市場に投入する戦略
	設問要求	構築による達成目的, 強み, 施策, 機能実装の目的, CT0 のコメントへの対応(指摘理由, 会員ニーズ, 通知内容)
	難易度	A
4	問題テーマ	モーションシミュレーターの事業展開
	事例内容	保有技術を生かした新たな製品開発と市場への投入
	設問要求	市場分析, 協業の目的と技術提携の理由, システムの特徴, 現市場の問題点
	難易度	B

注) 難易度は 3 段階評価で, C が難, A が易を意味する。

4. 午後Ⅱ問題の分析

4.1 全体の出題傾向及び難易度について

問 1 は、改修要望への対応を経験したことがある受験生は多くいると思われますので、対応できた受験生は多かったと考えます。

問 2 は、リスク対応の基本的な方法が把握できている受験生であれば対応できたと考えます。

問 3 は、アプローチした型や、寄与した内容を論述させるなど、アウトラインは描けても、問題文の指示どおりに内容を盛り込むことができたかがポイントになったと考えます。設問ウでは設問要求が多く、制限字数内に論述することに苦勞した受験生も多かったと思います。

各問とも設問要求に特に新しいものはありませんでした。全体的な難易度は「標準レベル」と判断しました。

4.2 各問題のテーマ、特徴

問 1 は、IT システムに関わる改修要望の分析と対応方針の立案がテーマでした。一見論述しやすく見えます。しかし、単なる改修要望であっても利用部門の視点だけでなく、問題文の指定する様々な視点から真因を探る必要がありました。情報収集・分析方法の工夫点がしっかり論述できているかがポイントになると考えます。

問 2 は、個別システム化計画におけるシステムリスク対応方針の立案がテーマでした。リスク対策はある程度はイメージしやすかったと考えます。システムリスク対応方針の立案の進め方を意識しながら論述する必要がありました。設問ウでは事業部門と経営層、この両者への提案内容の違いを意識しながら論述することができたかがポイントになると考えます。

問 3 は、組込みシステム・IoT 製品の社会環境の急変に勝ち抜くための革新的な製品戦略がテーマでした。革新的な製品戦略となっていますので、市場・競合他社の動向や最新の技術情報を収集した結果をどのように活用したのかなどの流れをはっきりさせながら論述する必要がありました。

4.3 問題テーマ難易度一覧表

問	項目	内容
1	問題テーマ	IT システムに関わる改修要望の分析と対応方針の立案について
	実務手順	情報収集から分析し問題の真因を突き止めた上での対応方針の立案
	設問要求	事業概要，分析の対象となる業務と IT システム，利用部門からの改修要望・問題意識，事業特性，収集した情報，分析方法，特定した真因，工夫したこと，利用部門・関係部門との協議内容，立案した対応方針
	難易度	B
2	問題テーマ	個別システム化計画におけるシステムリスク対応方針の立案について
	実務手順	情報システム戦略やセキュリティポリシーに基づいたインシデントへの備え
	設問要求	対象としたサービスと個別システムの概要，事業特性，立案したシステムリスク対応方針，想定したインシデント・インパクト，立案時の工夫点，事業部門・経営層への提案内容・指摘を受けて改善したこと
	難易度	B
3	問題テーマ	組込みシステム・IoT 製品の社会環境の急変に勝ち抜くための革新的な製品戦略について
	実務手順	市場・競合他社の動向や最新情報を踏まえて，市場のニーズに適合する製品か判断しながらの製品企画立案
	設問要求	概要と企画の経緯，アプローチした型とその理由，市場・競合他社の動向調査と検討，最新の技術情報の収集と検討，ステークホルダへの提案と承諾，製品化の過程での課題抽出と解決策の策定，調査結果・収集情報の寄与内容，ステークホルダへの提案の評価，製品化の過程で抽出した課題の解決策に対する妥当性の評価
	難易度	B

注) 難易度は3段階評価で，Cが難，Aが易を意味する。

5. 今後の対策

5.1 午前Ⅱ対策

午前Ⅱ試験の過去問題の出題比率は、前回は例年より若干低く、今回はさらに低くなっていました。しかし、依然として過去問題の割合は多く、また過去問題の類似問題も出題されていることから考えますと、過去問題を徹底して演習することは重要です。また、新しい用語は、日頃から IT 関連のニュースなどに注視し、必要に応じて概要レベルでも把握しておくことをお勧めします。

キーワード	解説
顧客生涯価値	顧客が新規に導入してから、顧客ライフサイクルあるいは一定年数を通して、その企業にもたらす総利益を現時点における正味現在価値で表した金銭的指標
リフトアンドシフト	情報システムをオンプレミスからクラウドに移す場合、オンプレミス環境で運用していた業務システムをそのままクラウド環境に移す手法
MLOps	機械学習と運用を組み合わせた用語。データサイエンティストと運用担当者がお互いに連携し、コミュニケーションを取りながら行う開発の方法論
ブロックチェーン	情報通信ネットワーク上にある端末同士を接続して、暗号技術を用いて取引記録を分散的に処理・記録するデータベースの一種
ChatGPT	人口知能の研究開発機関である OpenAI によって開発され、ユーザーが入力した質問に対して、まるで人間と対話しているように返答するチャットサービス

5.2 午後Ⅰ対策

次回から出題形式が変更され、今まで出題されていた問 4 の組込み分野の出題がなくなり、3 問から 2 問を選択して解答する形式となります。

午後Ⅰ試験に出題された、ブロックチェーン技術やスマートシティ構想などの新しい取り組みは、今後もしも取り上げられると考えます。また、DX や AI 関連のテーマも引き続き注意が必要でしょう。しかし、午後Ⅰ問題で問われるポイントは、経営戦略や経営課題、事業戦略や事業課題に対してどのように対応するかです。テーマに翻弄されることなく、本質を把握して解答する演習が必要です。そのためにも過去問題を活用して、課題に対する対応方法などがどのように問われているかを確認しましょう。

午後Ⅰ試験では、事例の内容をしっかりと読み込むことが重要です。経験したことのある事例やイメージしやすい事例であっても、受験者の思い込みや予測ではなく、問題文に記述されている内容から解答する必要があります。問題文から抽出した情報を基に解答を作成するように演習を行いましょう。

次に、今後の午後Ⅰ試験で出題される可能性のあるテーマ概要を挙げてみました。

項目	内容
問題テーマ	サービス形態の変化に対応した AI 技術の活用
事例内容	既存サービスの事業課題，外部環境変化，労働力不足に対する AI の活用方法，事業戦略との整合性，投資効果の測定
設問要求	事業課題の把握，外部環境変化の内容，AI のメリット・デメリット

5.3 午後Ⅱ対策

次回から出題形式が変更され，今まで出題されていた問 3 の組込み分野の出題がなくなり，2 問から 1 問を選択して解答する形式となります。

午後Ⅱ試験は，実務手順を問題文で説明し，その実務手順に基づいて，設問要求事項に解答する形式で論述答案を作成します。午後Ⅱ問題は，具体例を示した上で，IT ストラテジストとしてどのように分析し，経営層にどのように提案したのかを論述させる形式になっています。その分析では，外部環境やステークホルダの状況を正確に把握し，的確な検討・調整を行うことが求められます。IT を活用した業務プロセスの改善や新システムの企画という事例はある程度事前に準備することができます。準備した事例を軸に設問要求に対応できるように演習を行いましょう。

次に，今後の午後Ⅱ試験で出題される可能性のあるテーマとして，自動化技術を活用した新システムの企画についての問題例を想定しました。

項目	内容
問題テーマ	自動化技術を活用した新しいシステム企画の立案
実務手順	顧客との接点を重視していた企業であっても，慢性的な労働力不足や人材育成の難しさなどに直面し，どこを自動化しどこを人が担うかを分析・検討した上で新しいシステムを企画する。
設問要求	事業概要，新しいシステムを企画する背景，事業特性，現状のシステムの分析，新しい業務プロセスの検討，新システムの特徴，経営層への提案と評価，事業部門への説明と改善点